



Keeping Cultural Diversity for the Future in the
Digital Space - from Pop-Culture to Scholarly Information

iPRES 2017 開催趣意書

京都大学では、2017年9月に iPRES 2017 (<https://ipres2017.jp/>) を主催いたします。iPRES (International Conference on Digital Preservation : <https://ipres-conference.org>) は、デジタルデータの長期保存に関する諸課題について、研究者と実務者が集まり議論する国際的な学術会議です。北京における2004年の第1回会議以降、欧州・北米・アジア・豪州の文化的記憶機関 (Memory Institutions) による持ち回りで毎年開催され、第14回目となる iPRES 2017 は初めての日本開催となります。

大規模デジタルアーカイブやオープンデジタルの書籍・画像・音楽・動画・ゲームなど、デジタルコンテンツ量は飛躍的に増加しています。このようなビッグデータ時代において、デジタルデータの長期保存は、デジタルデータの長期利用を保障する上で不可欠な要素です。しかし、文書からソフトウェアまでの幅広いデジタルコンテンツを対象とすること、未来に向けての長期的な取組が必要であること、研究・技術のみならず実務・運用までを視野に入れる必要があるため、デジタルデータの長期保存の重要性は認識されつつも、日本においては一般的な研究課題として論じられることはありませんでした。このような経緯から、日本におけるデジタルデータの長期保存研究のブレークスルーとなることを意図して iPRES 2017 を誘致いたしました。

International Conference on Digital Preservation 2017 (iPRES 2017)

テーマ：“Keeping Cultural Diversity for the Future in the Digital Space — from Pop-Culture to Scholarly Information (多様な文化をデジタル空間に保存して未来へ伝えるーポップカルチャーから学術情報まで)”

日時：2017年(平成29年)9月25日(月)～29日(金)

会場：京都大学国際科学イノベーション棟(吉田キャンパス本部構内)

iPRES 2017 のテーマ

iPRES は、世界各地の研究者や研究機関を繋ぐ国際コミュニティフォーラムであり、デジタルデータの長期保存に関する研究・技術開発と社会還元に貢献してきました。他方、京都大学は、日本を代表する大学として文化資源のデジタル化と保存に関する研究を進めており、とりわけ地域研究に関するナショナルセンターの一つという特性を活かして、アジア諸地域のコミュニティとの協働を志向してきました。iPRES 2017 では、このようなアジアの視点をとりにこみつつ、多様な領域や観点から、文化資源デジタルデータの長期保存について議論することを目指しています。また、オープンサイエンス、オープンデータの推進に注目が集まる中、文化資源のみならず、社会科学、科学技術領域における種々のデータの長期の利用に対しても資するものです。加えて、研究者のみならず実務経験を持つ参加者による発表と議論が、将来に向けたデータの長期利用を可能にすると考えております。

iPRES 2017 は、日本の情報資源管理およびデジタル・ヒューマニティーズ分野において先進的な取り組みを行っている研究者コミュニティと、図書館・博物館・文書館などの主要な文化的記憶機関が協同して開催されます。主催機関である「京都大学東南アジア地域研究研究所*」は、日本におけるアジア地域研究を先導する同時に、地域研究と情報学の融合を積極的に推進しているユニークな文理融合型の研究所です。また、日本およびアジア地域の主要な文化的記憶機関には、学術的価値の高い膨大な資料が収集・蓄積されており、洗練された GUI による検索や API を用いた情報サービスなどの機能を提供しています。iPRES2017 の超学際的な特色は、iPRES に新たな一面を加えるものと期待しています。そのため iPRES 2017 では、デジタルデータの長期保存に関する諸課題に加えて、セマンティック・ウェブ、機械学習、自然言語処理などの先端技術の応用、データベースの知識基盤としての再組織化、個人（研究者）が構築した非標準データベースの長期利用などについても積極的に議論して行きたいと考えています。

いうまでもなく京都は世界遺産を多く抱える古都ですが、伝統産業の持つ技術や人材と大学が結びついた研究開発型企業が多数立地し、さらにはポップカルチャーの発信基地としても異彩を放っている先端都市です。このような京都で開催される iPRES2017 では、学術資料に加えて、伝統芸能、技術情報、ゲーム、アニメなど、幅広い情報資源を対象にしたいと考えています。

iPRES 2017 が扱うトピック

iPRES 2017 では、以下のようなトピックの発表報告を受け付けています。

- デジタル保存に関する制度的課題、組織的課題、技術課題、教訓
- デジタル保存のフレームワーク、実装、評価
- 次に掲げるコンテンツに関する保存戦略、保存計画、保存手順、保存ツール
 - ・ デジタル・アート（理論、実践）

* 京都大学「東南アジア研究所」と「地域研究統合情報センター」は、2017年1月より「東南アジア地域研究研究所」として統合・再編されました。

- ・ ゲーム
- ・ ウェブ
- ・ ソーシャル・メディア
- トレーニング、教育、ケース・スタディ、ベスト・プラクティス、新規課題
- 研究データの保存
 - ・ 種々の領域のデータセットの特性評価、
 - ・ 種々の領域のデータセット、大規模データセットの保存とキュレーション
 - ・ 科学的処理とコンテキストのモデル化と記述、モデルとシミュレーションの工学
 - ・ リスク・モデル、依存関係管理
- スケーラブルな保存、サービス・ビジネス・モデル

iPRES 2017 の報告形式

iPRES 2017 における報告形式は、以下のようになります。

- フルペーパー
- ショートペーパー
- デモ/ポスター
- パネルディスカッション
- ワークショップ
- チュートリアル

デジタル保存研究分野における先導的
研究者による基調講演を予定いたして
おります。



iPRES 2016 ベルン大会の様子

協賛・協力のお祝い

欧米においては、デジタルデータの長期保存の重要性が認識されており、スイスのベルンで開催された iPRES2016 では、欧米を中心とした図書館員、アーキビスト、情報技術者、企業、大学の資料保存研究者など約 300 人が参加して、研究と実務の両面から活発な発表や議論が行われました。iPRES2017 は、このような欧米の動向を、日本を含むアジア地域において展開することを意図して、京都大学が招致いたしました。同時に、日本の先端的なデジタル技術、デバイス、保存技術、学術活動などを世界の専門家に紹介する機会にもしたいと考えております。

このような iPRES 2017 の趣旨と、社会・文化・研究・教育への貢献にご理解頂き、ご協賛／ご支援につきましてご検討を頂ければ、本国際会議の組織委員会として、望外の幸いでございます。

ご協賛／ご支援頂きました方々には、ウェブサイト上でのバナー掲載などの特典がございます。なお、協賛・協力者は、単なる広告主としてではなく、iPRES2017 のデジタルデータ長期保存に関する研究・活動を積極的に助成・応援してくださる方々として、国際的な認知度が上がり、必ずやイメージアップに繋がるものと期待されます。

末筆とはなりますが、皆様の益々のご発展とご繁栄を心よりお祈り申し上げます。

iPRES 2017 組織委員会

委員長 原 正一郎

(京都大学東南アジア地域研究研究所教授／副所長)